

静岡県在宅歯科医療推進室からのお知らせ③

「こんな時は^{くち}お口に何か原因があるかもしれません」 ～肺炎です～

75歳の男性 今日、月に1度の内科受診。いつも血圧を下げる薬を貰っています。
実は、最近、体がだるくて・重い。食欲も今ひとつ… 今朝は、本当は布団から出たくなかったけれど、薬を貰わなくちゃならないから、重い体を無理やり起こしました。内科は家から歩いて5分。今日は、その5分を歩くのに息が切れてしまいました。

医師「調子はどうですか？血圧はいつも通りで、問題ないですよ。いつものお薬だしましょう。」

男性「はい、ありがとうございます。ハぁ～（ため息）」

医師「はい、吸って～、吐いて～ むむ…（呼吸音がおかしいぞ）」

熱はないですか？37.0℃ですか…」

男性「先生、この頃、だるくてね。ちょっと動くと息が切れて。」

先生「そうですか。今日は、念のため、胸のレントゲンも撮りましょう。」

男性「え？レントゲンかね？」



～レントゲン撮影の結果～

医師「お待ちせしました。肺が白くなっています。これは肺炎です。」

男性「肺炎？予防接種の注射も打って貰ったから、かからないんじゃない？」

医師「予防接種は、肺炎球菌というバイ菌に効くので、肺炎予防には大事です。」

でも、高齢者には誤嚥性肺炎の心配があります。」

男性「ごえん…？？」

医師「ごえんせい（誤嚥性）肺炎です。誤嚥性肺炎は、お口の中のバイ菌が肺に入って肺炎を起こします。肺炎の原因は、肺炎球菌だけじゃないんですよ。」

男性「ハぁ～そうかね…」

医師「あなたも、誤嚥性肺炎かもしれません。」



- *新型コロナウイルス感染症が命に関わる重い肺炎を引き起こすことが問題になっています。肺炎は怖いと、今は誰もが思いますが、実は、肺炎は以前から日本人の死因の上位を占める病気です。肺炎は、特別な理由がなくても、抵抗力の衰えた時に感染・発症することがあります。高齢者の肺炎は、発熱や咳などの目立った症状が出ないまま進行し、発見が遅れることも多いです。風邪やインフルエンザが長引き、治らなと思ったら肺炎にかかっていたという場合も多くあります。
- ***誤嚥(ごえん)**とは、飲み込んだものが胃に入らず、誤って気管や肺に入ること。誤嚥性肺炎は、誤嚥して気管や肺に侵入したお口の中のバイ菌が原因になります。年齢と共に食べる・飲み込むなどの機能が衰え（オーラルフレイル）、高齢者は誤嚥の危険性がぐっと高まります。
- ***誤嚥性肺炎の予防には、歯や入れ歯、舌などを清潔に保つことと、お口の老化を放置せず、お口の体操などをすることが大事です。**コロナ自粛で家に閉じこもり、人と話さないでいるとお口の機能は低下します。人と会わないと、歯みがきもサボりがちになります。そんな些細なことでも、肺炎を起こす引き金になります。
- *お口のバイ菌は、口臭や虫歯・歯周病などを起こしますが、インフルエンザウイルスの感染に関わることもわかっています。**お口の清潔・機能を保つと、風邪やインフルエンザ、誤嚥性肺炎の予防になります。**

静岡県在宅歯科医療推進室（静岡県歯科医師会内）

〒422-8006 静岡県静岡市駿河区曲金3丁目3番10号 開室時間）平日 10:00～15:00

TEL) 054-202-6480 FAX) 054-202-5009 email) zaitaku@s8020.or.jp HP) <https://s8020.or.jp/>